

市長就任の
ごあいさつ

第20代市長 武田 浩一

【生年月日】
昭和38年6月19日
【最終学歴】
久留米大学商学部卒業

皆さま、こんにちは。 第20代串間市長の武田浩一です。

9月に行われました市長選挙では、多くの市民の皆さまの応援と付託を賜り、「元気で楽しく新しい串間の未来」に向けて、スタートを切ることができました。当初から申し上げておりますように、選挙が終わればノーサイド。串間市民全員でこの難局に立ち向かっていくことを願っております。

私は選挙期間中、5つの柱を政策に訴えてまいりました。

- ①「串間市民病院再建」医療体制の確保
- ②「串間市の財政再建」
- ③「防災センター建設反対」
- ④「日本一・日本初プロジェクトに挑戦」
- ⑤「二次産業・商工業・観光の活性化」

どれも優先順位は高く、中でも市民病院の安定した運営は喫緊の課題であるため、国や県などと連携しあらゆる手立てを講じて、5年後・10年後でも皆様に安心していただける医療体制を構築してまいりたいと思います。

情報化も極めて重要なテーマであります。串間が誇る数々の地場産品。この地場産品の誕生物語、そこから連想されるイメージや言葉などを再パッケージすることで、より高い価値が生まれます。このように情報を新しい形式に整理し提供する努力は、1度や2度ではなく不断のものとして、また、個別ではなくトータルデザインとして取り組んでいきたいと考えています。この考えの先にあるのが、「ふるさと納税の倍増」です。

さて、よくご質問をいただく「串間版、日本一・日本初プロジェクト」ですが、さまざまな分野で串間から日本一・日本初が誕生していくベースを作りたいと考えています。例として、私の任期4年間のうちに「広報くしま」を全国広報コンクールで日本一、あるいはそれに準ずる成績を目指したいと思っています。

また、「串間のうたづくりプロジェクト」も、日本初として構想しています。これまでは作曲をしようとするとなんとなくとも数年の勉強が必要でしたが、AIの登場で「想い」を歌に生成できる時代へととなりました。多くの「想い」でふるさと「串間」の歌が生まれれば素晴らしいです。

しいことです。また、その歌を串間初として全国に広めれば、それもまた日本一・日本初プロジェクトのハブの1つとなります。

日本初ということは前例がないということですが、10年間で2割も人口が減るといふ、まさに前例のないことに立ち向かうためには、これまでの常識や不安を捨て、前に進まないといけない時もあるでしょう。私はその先頭を走ってまいりたいと念じております。

今後とも皆さまのお力をお貸しくださいますよう、何卒よろしくお願いいたします。

主な経歴

平成19年6月
(資)武田商店(酒のたけだ)設立
平成22年5月
串間市議会議員 初当選
平成23年4月
串間市議会議員 2期目当選
平成27年4月
串間市議会議員 3期目当選、副議長、議会運営委員長等を歴任

平成29年10月
宮崎県議会議員 初当選
平成31年4月
宮崎県議会議員 2期目当選
令和5年4月
宮崎県議会議員 3期目当選、宮崎県議会自民党幹事長、防衛議員連盟幹事長、環境農林水産常任委員会委員長、商工建設常任委員会委員長、総務政策常任委員、南海トラフ対策特別委員等を歴任
令和7年10月
第20代串間市長就任

数々、そしてこの祭りの象徴である「柱松」の迫力は圧巻でした。少しではありますが、スタッフとして準備や運営に携わったからこそ、祭りの盛り上がりや地域の人々の熱量をより身近に感じることができ、夏の忘れられない思い出になりました。

また、私は自然が大好きで、串間に来てからたくさんの自然に触れることができました。特に、仕事終わりに高松海水浴場に行って波の音を聞きながら夕日を眺めた時間は、心身ともにリフレッシュできる穏やかなひとときとなりました。

1カ月間のインターンシップを通して、市役所の業務や地域行政の役割について学ぶとともに、串間市が持つ自然・文化・人の魅力を深く知ることができました。単に観光資源があるだけでなく、それを支えている市民や行政の努力があってこそ地域が成り立っていることを理解できたことは、自分にとって大きな学びとなりました。今後の進路や将来のキャリアを考える上でも貴重な経験になったと感じています。

インターンシップを終え、しばらくの時間が経ちました。振り返れば、あっという間の1カ月でした。また串間を訪れた時は、今回とは違った視点で、串間の新たな魅力を見つけたいです。

8月18日から9月12日までの約1カ月間、串間市商工観光スポーツランド推進課でインターンシップに参加しました。串間市には、高校の友人と旅行で訪れたり、家族と都井岬に初日の出を見に来たり、福島港で釣りを楽しんだり、以前から何度も足を運んでいました。しかし、「旅行者」として短期間滞在するのと、「市役所の一員」として約1カ月過ごすのでは全く異なるものであり、不安半分・期待半分という気持ちの中、インターンシップがスタートしました。なお、今回が初めての1人暮らしでもあり、生活面での新しい挑戦にもワクワクしていました。

実際に過ごしてみると、串間の人の温かさを強く実感しました。課の皆さんをはじめ、市役所の職員の方々、さらに業務を通じて出会った地域の方々まで、本当に多くの方に親切に接していただき、アットホームな雰囲気に包まれながら活動することができました。こうした温かさは、観光で訪れるだけでは十分に感じ取ることができない部分であり、改めて、まちの魅力の1つだと思いました。

活動の中で特に印象的だったのは、串間市の3大祭りの1つである「都井岬火まつり」にスタッフとして参加した経験です。都井岬に設けられたステージで、海を背景に披露されるステージイベントや、にぎやかな屋台の



profile

たがみ ゆな
田上 結菜
宮崎大学 地域資源創成学部2年。三股町出身。
小学2年生から高校3年生までの約10年間、新体操クラブチームに所属。座右の銘は「迷ったら心躍る方へ」。



宮崎大学に通う田上 結菜さんが、串間市商工観光スポーツランド推進課でインターンシップを行いました。田上さんのインターンシップを通しての感想を紹介します。

Internship